

国際セミナー「モバイル・ビッグデータの交通計画への活用」
～日 ASEAN 交通連携プロジェクト～

国土交通省 岡西康博 国際統括官 来賓挨拶

タイ王国 アーコム 前運輸大臣、チャヤタン 交通政策計画局長、ASEAN 各国及び ASEAN 事務局の皆様、ご列席の皆様、おはようございます。

ご紹介いただきました、私は、日本の国土交通省国際統括官の岡西康博です。

本日は、一般財団法人運輸総合研究所主催「モバイル・ビッグデータの交通計画への適用に向けた国際セミナー」が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

現在、世界では、ビッグデータや AI などの技術革新が急速に進み、これらの技術の中核とした第4次産業革命が進展しています。日本では、データを介して人とモノがつながり、知識や情報が人々の間でシェアされ、新たなサービス・価値を生み出す社会、あらゆる人々の多様なニーズにきめ細かく対応できる社会、すなわち Society5.0 を目指す戦略を立ち上げ、検討を進めているところです。ここタイにおいてもスマートシティプロジェクトが動き出していると承知していますが、ASEAN 諸国においても昨年 10 月には日 ASEAN スマートシティネットワークハイレベル会合が日本で開催されるなど、ビッグデータの活用に向けた活発な動きが出てきたところです。これら Society5.0 やスマートシティの重要な要素である交通分野においても、ビッグデータや AI、更には自動運転技術やシェアサービスなどを活用した「モビリティ革命」が進展しています。例えば、スマートフォンアプリを使い、複数の移動サービスや関連する他のサービスを最適に組み合わせ、検索・予約・決済などを一括で提供する MaaS と呼ばれる新しいモビリティサービスが普及しつつあります。人々が MaaS を利用することで蓄積される「モバイル・ビッグデータ」を活用することにより、移動時間の最小化や供給の効率化を実現するのみならず、消費行動やライフスタイルに変化をもたらし、都市や地域の様々な課題を解決する可能性があります。

先ほど、チャヤタン局長からも話がありましたが、モバイルデータを取り扱う上で、個人情報保護は保護されなければなりません。しかし、個人が特

定されないように加工されたデータであれば、何の問題もないはずで
す。非個人データについては、昨年の G20 大阪サミットで提唱されたデータ・
フリー・フロー・ウィズ・トラスト、すなわち信頼できるルールの下で自
由に流通させ、社会課題の解決や更なる経済発展が見込めると考えていま
す。

本日のセミナーは、大きな可能性を秘めたモバイル・ビッグデータを交
通インフラの整備にどのように活用していくのか皆様と一緒に考えるき
っかけになると考えています。また、このプロジェクトは、日本と ASEAN
の交通分野の協力枠組みである「日 ASEAN 交通連携」の下で実施されて
います。このプロジェクトを通じて、日本、タイそして ASEAN 全体の交
通分野の更なる発展につながることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

以 上